

[かな-10] 複合名詞の送りがなについての考え方

1 すべて活用語尾を送る考え方

<動+名> 編み物, 貸し家, 組み曲, 洗い場, 使い道, 勤め人
<名+動> 心持ち, 手当て, 手続き, 心構え, 息抜き, 命拾い
<動+動> 受け取り, 埋め合わせ, 積み立て, 忍び泣き, 持ち逃げ
<その他+動> 大詰め, 白焼き, 小包み, 荒削り, ほろ酔い, 未払い
<さらに他の語とつくもの> 貸し付け金, 乗り換え駅, 振り出し人, 浮き世絵

2 送る必要のないものを区別する考え方

① 送らない慣用のあるものを区別する考え方

注 総理庁・文部省「公文用語の手びき」(昭和22年), 「文部省刊行物 表記の基準」(昭和25年)で送りがなを省いているもの

<動+名> 編物, 貸家, 建物, 控室, 雇主, 織物, 立場
<名+動> 心持, 手当, 手続, 日付, 物置, 夕暮
<動+動> 受取, 請負, 積立, 取扱, 取消, 取引, 打消, 踏切, 振替, 見舞, 召使, 割引
埋合せ, 売出し, 買入れ, 組合せ, 繰上げ, 引揚げ, 差入れ, 乗越し, 呼出し
<その他+動> 大詰, 白焼, 細引, 小売, 又貸, 小包, 未払
<さらに他の語とつくもの> 貸付金, 乗換駅, 振出人, 浮世絵, 取締役, 代金引換

② 複合語の前部分の音節数によって送り分ける考え方

—複合語の前部分が2音節のときは, 原則として前の語の送りがなを省き, 3音節以上のときは, 原則として省かないとするもの。

<参考>

○ 朝日新聞社「送りがなのつけ方」

「複合語で上の語が3音以上のときは原則として上の語の送りを省かない。」

○ 毎日新聞社「送りがなのつけ方」

「活用語が上にくる複合名詞には、最初の語の送りを省くものと省かないものがある。一般に最初の語が3音節以上のものは、送りを省かないことが多い。」

「最初の語が2音節のときは、原則として省く。」

2音節のもの	
(動+名)	編物 植木 置物 織姫 駆足 枯木 敷石 浮袋 飼犬 入口 引算 化物 乗気 泣声
(動+動)	編上げ, 言残し, 討入り, 打消し, 埋立て, 書込み, 切抜き, 差押え, 刷上がり, 取調べ
3音節のもの	
(動+名)	洗い髪, 移り気, 送り状, 教え子, 帰り道, 隠し芸, 語り物, 勤め先, 通り相場, 流し目, 眠り薬, 登り口, 働き者 (例外: 控室, 雇主, 認印)
(動+動)	洗い張り, 移り変わり, 返り討ち, 覚え書き, 通り抜け, 願い下げ, 走り書き, 放し飼い, 譲り渡し, 忍び泣き (例外: 申込み, 申立て)

3 送りがなを省くことに問題があるものについての検討

① 音読語と区別がつかなくなるもの

(動+名)	生き物 (生物)	生け花 (生花)	入り用 (入用)
(2音)	古い松 (老松)	落ち葉 (落葉)	食べ物・食べ物 (食物)
	冷や水 (冷水)	見せ物 (見物)	焼け土 (焼土)
	読み本 (読本)	書き物 (書物)	
(3)	洗い髪 (洗髪)	預かり金 (預金)	歌い手 (歌手)
	通い帳 (通帳)	変わり種 (変種)	散らし髪 (散髪)

音 流れ星 (流星) 離れ島 (離島) 開き封 (開封)
 渡し船 (渡船) 笑い話 (笑話)

(動+動)

打ち倒し (打倒) 刺し殺し (刺殺)
 説き明かし (説明) 生き死に (生死) 有り無し (有無)
 (2音) 〇 出入り (出入) 〇 見聞き (見聞) 〇 上げ下げ (上下)
 〇 浮き沈み (浮沈) 〇 出し入れ (出入) 〇 裁ち縫い (裁縫)
 〇 飲み食い (飲食) 〇 乗り降り (乗降) 〇 舞い踊り (舞踊)
 (3音) 〇 読み書き (読書) 〇 送り迎え (送迎) 〇 貸し借り (貸借)
 譲り渡し (譲渡)

注 〇印の語は、対語・並列のところでも再出。

(その他+動)

大食い (大食) 大笑い (大笑) 長生き (長生)

(その他)

前渡し金 (前渡金)

② 活用のちがいが、わからなくなるもの

<前要素の場合>

売子	食物	当物	入口	決手
{ 売り子	{ 食べ物	{ 当て物	{ 入り口	{ 決めて
{ 売れっ子	{ 食べ物	{ 当たり物	{ 入れ口	{ 決まり手
	{ 食わせ物			
取高	引時	抜荷	焼石	割目
{ 取れ高	{ 引け時	{ 抜け荷	{ 焼き石	{ 割り目
{ 取り高	{ 引き時	{ 抜き荷	{ 焼け石	{ 割れ目
混物	折込	切込	立続	
{ 混ぜ物	{ 折り込み	{ 切り込み	{ 立ち続け	
{ 混ざり物	{ 折れ込み	{ 切れ込み	{ 立て続け	
{ 混じり物				

<あと要素の場合>

差向	食残	気付	協明 [×]
{差し向き	{食べ残り	{気付き	{協明き
{差し向け	{食べ残し	{気付け	{協明け
{差し向かい			

③ 対語または並列の関係にあるもの

明[○]け暮[○]れ、上[○]げ下[○]げ、行[○]き帰[○]り、浮[○]き沈[○]み、売[○]り買[○]い、起[○]き伏[○]し、
 送[○]り迎[○]え、貸[○]し借[○]り、足[○]し引[○]き、出[○]し入[○]れ、裁[○]ち縫[○]い、積[○]み降[○]ろし、
 伸[○]び縮[○]み、飲[○]み食[○]い、乗[○]り降[○]り、舞[○]い踊[○]り、読[○]み書[○]き、泣[○]き笑[○]い、逃[○]げ隠[○]れ、
 見[○]え隠[○]れ、生[○]き死[○]に、有[○]り無[○]し、抜[○]き差[○]し、受[○]け払[○]い

注 ○印の語は、音読語と区別がつかなくなるもの

4 その他の考え方

① 後ろにつく語の関係から送りがなを規制する考え方

<参 考>

- 朝日新聞社「複合名詞のなかには下の語によって上の語の送りを規制することがある。」例：「潮，道，方，物，子」などのつく語。
- 毎日新聞社「下に、『方（方法，やり方の意味），続け，始め，終わり』がつくものは送りを省かない。」

- [潮] 上げ潮，満ち潮，引き潮
- [道] 帰り道，戻り道[×]，通り道，回り道，別れ道，抜け道
- [薬] 眠り薬，飲み薬，下し薬，塗り薬
- [方] 言い方，話し方，聞き方，考え方，作り方，明け方，暮れ方
 （売方，買方，貸方，借方）
- [物] 食い物，食べ物，洗い物，干し物，忘れ物，続き物
 （建物，乗物，編物，吸物，呼物，売物，買物，仕立物，掘出物）
- [手] 話し手，語り手，歌い手，働き手，追っ手，決め手
 （切手，売手，買手，貸手，抜手，行手）

- [目] 折り目, 折れ目, 結び目, 分け目, 引け目, (死目, 伏目)
- [口] 勤め口, 売れ口, 落ち口, 切れ口
(入口, 切口, 取口)
- [足] 急ぎ足, 勇み足, 逃げ足, 抜き足, 揚げ足, 投げ足
(駆足, 浮足)
- [分] 言い方, 申し分, 取り分 (持分)
- [先] 勤め先, 使い先, 送り先, (仕入先, 行先, 真先)
- [子] 踊り子, 申し子, 連れ子, 乳飲み子, (売子, 幼子, 迷子, 捨子, 振子, 鳴子, 張子)
- [主] 救い主, 拾い主, 落とし主, (売主, 貸主, 持主, 飼主)
- ㊦ 以上, 朝日新聞社の表記。()内は, 送りがなをつけないもの。

- 立ち続け, 乗り続け, 話し続け, 飲み続け [～続け]
- 売り始め, 織り始め, 泳ぎ始め, 書き始め [～始め]
- 書き終わり, 言い終わり, 読み終わり [～終わり]
- ㊦ 以上, 毎日新聞社「送りがなのつけ方」から。

<備考> あとの部分をかき書きにする場合は, 告示・朝日・毎日とも, 前の部分の送りを省かないとしている。

置きみやげ, 払いもどし, 焼きさまし, 追いはぎ, 酔いどれ, 焼けこげ

また, 前の語がかき書きの場合の, 後ろの語の送りがなの処置も考えられる。

むち打ち, ふた置き, ともえ焼き, すそ回し

② 複合動詞との対応があるかないかによって, 送りがなを区別する考え方。

<名+動の場合>

(対応があるもの) 意気込み ← 意気込む, 義理立て ← 義理立てる,
先走り ← 先走る, 手伝い ← 手伝う, 旅立ち ← 旅立つ

(対応がないもの)

裏書き	縁結び	金持ち	紙入れ	気持ち	黒塗り
木立ち	献立て	字引き	関取り	田植え	旅疲れ
腸詰め	手編み	夏休み	名取り	念入り	日帰り
戸締まり	盆踊り	船乗り	万引き	前置き	物笑い
紋付き	役割り	夕立ち	世継ぎ	夜逃げ	楽焼き
輪切り	小包み	未払い	ほろ酔い		
人作り	馬乗り	棒倒し	婦人持ち	ご飯蒸し	

<動+動の場合>

(対応があるもの)

売り出し ← 売り出す	打ち消し ← 打ち消す
勝ち越し ← 勝ち越す	取り扱い ← 取り扱う
取り締まり ← 取り締まる	召し使い ← 召し使う
受け取り ← 受け取る	受け付け ← 受け付ける
寄せ集め ← 寄せ集める	割り当て ← 割り当てる
泊まり込み ← 泊まり込む	見積もり ← 見積もる

(対応がないもの)

売り食い	洗い張り	起き抜け	帯び止め
駆け落ち	食い逃げ	染め抜き	寄せ書き
生き埋め	飢え死に	押し入れ	係り結び
掛け売り	切り張り	暮らし向き	